

1 教員向け研修

(1) 森林環境教育研修

森林のもつ多様な機能について体験活動を通じて学び、理解を深める環境教育学習は、子どもたちの「生きる力」を育むうえでも大変有効であることから、森林を活用した環境教育の理解を深め、学校等教育機関での実践・普及を図っていくことを目的として、箕面市教育委員会と連携し、教員等を対象とした森林環境教育の研修を実施しました。

7月27日(火)、箕面国有林の勝尾寺園地(大阪府箕面市)で、箕面市、豊中市、池田市、豊能町の小中学校の教職員18名に参加頂きました。

まず始めに、京都教育大学 山下宏文教授から「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育む森林環境教育の進め方」と題して1時間の講義をしていただきました。次に、大阪森林インストラクター会5名の講師により、ネイチャーゲームの「森の色あわせ」と「動物ヒントリレー」を実体験して頂きました。

受講者からは、講義については、「森林環境教育について、知識的にも整理されていて分かりやすかった。」「学校の近くには緑がたくさんあるので学んだことを生かしていきたい。」などの感想がありました。ネイチャーゲームについては、「色あわせがとても良かった。図工などの授業で自然の中の色探しのよう形でできたら面白いと感じた。」「カードを使った動物ヒントリレーは、初対面の人とも会話をしながら楽しめました。」「実際に体験することで、楽しさや協力することの大切さがよく分かり、活かしていける場面がありそうだと思います。」などの感想がありました。

今後も受講者の感想等を踏まえつつ、今後も適切な新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、森林環境教育の推進に向けた取組を実施して参ります。



【写真一】 山下教授による講義

【写真二】
ネイチャーゲーム「森の色合わせ」

(2) 「森の探検隊」 教員研修

箕面国有林「エキスポの森」では、「オオクワガタの棲（す）める森づくり」等のフィールドを活用して、ポイントを回りながら自然に関する設問を解いていく学習プログラム、「森の探検隊」を箕面森林ふれあい推進センターで開発し、箕面市内の小学生に体験してもらっています。

この「森の探検隊」プログラムについて、小学生の指導的立場である多くの教員にも知ってもらい、その活用と充実を図ることを目的として、本年度も箕面市教育研究会理科部会と共催で実施しました。



今年度は、8月4日(水)に箕面国有林の「エキスポ'90 みのお記念の森」周辺において、箕面市教育研究会理科部会の教職員6名に参加して頂きました。

まず始めに、大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター主任研究員 幸田良介氏を講師として招き、「大阪のシカの生息状況と被害状況の推移」について講義をして頂きました。その後、国有林内に設置してある防護柵を見ながら鉢伏山登山道の一部まで歩き、防護柵の内側と外側での植生の違いや落葉広葉樹林での稚樹の発生状況などについて学びました。次に、「森の探検隊」新規ポイント設定予定の箇所では、当センターから案を説明し、「学習のねらい」、「探検ポイントでの指令書(課題)」、「ヒント」の内容について、教職員の方々から助言を頂きました。

受講者からは、「シカを減らす良い方法はあるのか。」、「防護柵の外と中で植物の違いがよく分かった。」、「子供会の活動として森の探検隊の受け入れは可能か。」などの感想や要望がありました。

今後も受講者の感想等を踏まえ、今後も適切な新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、森林環境教育プログラムである「森の探検隊」の充実に向けた取組を実施して参ります。



【写真一 3 幸田氏による講義】



【写真一 4 シカ柵内の植生を学ぶ】

2 森林環境教育プログラム「森の探検隊」の開発と実践

(1) 「森の探検隊」とは

森の中に 25 箇所ほど設定されているポイントを 5～7 名の班で巡回し、各ポイントごとに出题される指令（問題）を班の全員で考え、答え等を導き出したり、デジカメで撮影したり、森の不思議について楽しく体験しながら学習できる森林環境教育プログラムです。体験後は、学校で問題や撮影した写真などについて、資料等で調べたりして探検ノートを補完することで更に理解を深めることができます。

「森の探検隊」では、子どもたちが学びたいと思うポイントを自分達で選び、問題に対する答え等を導き出していくことにより、理科・社会・算数・国語・道徳などを総合的に学ぶことができます。

今年度は、8月4日（水）の実施した「森の探検隊」教員研修の参加者に助言を頂き、新たなポイントを 1 箇所追加設定しました。

また、10月15日（金）に箕面こどもの森学園を受け入れて、「森の探検隊」「ネチャーゲーム（宝探し、音いくつ）」を実施しました。箕面市教育委員会と連携した豊川北小学校の実施は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止となりました。

来年度は、新型コロナウイルス感染症対策を万全に行って複数校の小学校で実施できるよう、引き続き箕面市教育委員会と連携して参ります。



【写真－1 箕面こどもの森学園「森の探検隊」】



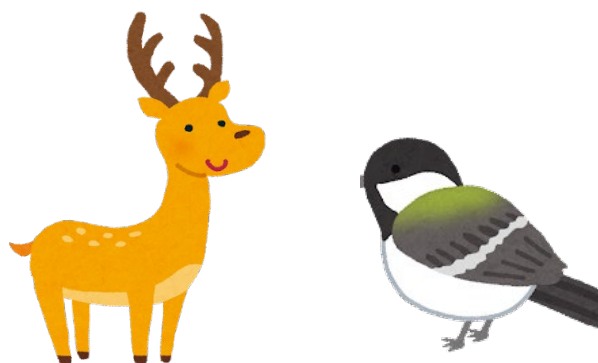
【図－1 探検マップ
（番号とポイント名）】

(2) モデルコースの選定

モデルコースの選定について、有識者の助言指導を頂きながら取り組んでいます。
なお、モデルコースが完成後は、来園者が手軽にダウンロードしやすいよう、センターホームページに「モデルコース」のQRコード、地図、指令書、ヒント、標準解答例などの掲載に取り組むことにしています。

ア 森の動物探検コース

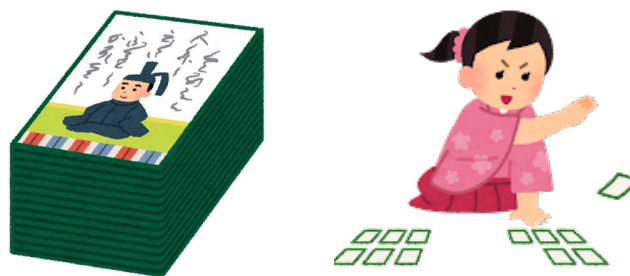
令和3年度は、教室等でも使用出来るパワーポイントを作成しました。
令和4年度は、コースマップの作成、QRコードをHPでの公表等に取り組むことにしています。



イ 百人一首コース

令和3年度は、現地踏査の実施状況を、検討委員会（9月16日、3月10日）において各委員に説明し、場所の設定などについて助言を頂きました。ササ原の箇所については、竹柵を設置し、誤って刈り払われないようにしました。

令和4年度は、委員の助言等を踏まえ、ポイントの設定、コースマップの完成、QRコードのHP掲載等に取り組むことにしています。



ウ 小・中学校の教科書を活用した学習コース

同コースの選定を行うにあたり、教科書から箕面国有林内にある植物の抜粋と、それらの植物がどこにあるか確認するため、9月7日（火）に現地踏査を行いました。一部確認できていない植物があることから、春季の開花時等に看板設置場所の確認もかねて、再度踏査を行うこととしています。

さらに、訪れた人に興味を持ってもらえるような仕掛けのある看板案や、QRコードを活用したルートマップの作成に取り組んでいます。完成した植物看板は、次年度に設置することとしています。



3 森林環境教育の教材作成

(2) 創作紙芝居及び絵本『もくざいのヒミツ』を作成・公表

森林環境教育の教材等として教育関係者や一般の方々にも広く利用いただけるよう、令和3年7月には紙芝居『もくざいのヒミツ』デジタル版を近畿中国森林管理局ホームページ上で公開しました。さらに令和4年2月には、新たに挿絵を追加で描きおろしてさらに気軽に読んでいただけるよう絵本版を作成し、教育関係者等へ配布（約100部）するとともに、同ホームページ上でも公開しました。

この紙芝居及び絵本は当センターの職員が制作したもので、物語は、主人公の小学生ハルヒちゃんが、おばさんの家に行ったときに自分の家と比べて雰囲気の違いに驚き、なぜこんな気持ちになるのかと疑問に感じたところから始まります。そのあとハルヒちゃんはマイクロサイズになって、木製机の内部に入り込み様々な探検をしながら体験をします。その過程で秘密の答えを見つけていくという物語です。

各地の森林教室で使用されているほか、御家庭での読み聞かせ等にも幅広くご利用いただいています。



【写真-1 紙芝居 もくざいのヒミツ】



【写真-2 使用事例】



【写真-3 絵本版 もくざいのヒミツ】

(1) 森林環境教育手引書〈小学校編〉の作成・発表

箕面森林ふれあい推進センターでは、平成 29 年 3 月に改訂された小学校の学習指導要領が、令和 2 年度から全面実施となったことに伴い、第 2 回を 5 月 24 日（月）、第 3 回を 9 月 13 日（月）、第 4 回を 12 月 21 日（火）に検討委員会を開催して森林環境教育手引書の改訂を行いました。

作成した手引書は、近畿中国森林管理局ホームページ上で公表するとともに、令和 4 年 3 月中旬から下旬にかけて、同森林管理局管内の 2 府 12 県市町村教育委員会及び教育関係者等へ配布（約 1,000 部）を行いました。

本書は、平成 29 年 3 月に改訂された小学校の学習指導要領の新教育課程を念頭に、森林・林業に関する図表や写真・動画を DVD という形で提供することにより、今後の森林環境教育の充実に役立てていただければ幸いです。

【表一 1 手引書改訂検討委員会名簿】

氏名	所属・職名	※（敬称略）
山下 宏文	京都教育大学 社会科学科教授	
波多野 達二	佛教大学 教育学科准教授	
平岡 信之	京都教育大学附属 桃山小学校教諭	
新宮 濟	奈良市立 平城小学校教諭	
國廣 幸一	箕面市立 箕面小学校教諭	



【写真－4 手引書改訂検討委員会】



【写真－5 手引書表紙】

(3) 創作紙芝居及び絵本『雨水のぼうけん』を増刷

森林環境教育の教材等として教育関係者や一般の方々にも広く利用いただけるよう、令和3年6月には絵本版を100部追加印刷し、教育関係者等へ配布しました。

さらに、一般社団法人日本森林・林業振興会大阪支部からのご厚意により、社会貢献の一環として絵本を1000部増刷のうえ、各方面に配布していただきました。



【写真－6 雨水のぼうけん 表紙】



【写真－7 絵本版 雨水のぼうけん】

1 森林とのふれあいを目指した取組

(1) 森林ふれあい推進事業

「国民の森林」として、森林での環境教育活動や体験活動など国民の福祉の増進等に寄与する活動として、森林への関心・理解を高めることを目的に「森林ふれあい推進事業」を実施しています。箕面国有林をフィールドとして、事業を実施していただける団体を募集し、協定を締結して、箕面森林ふれあい推進センターとの共催による事業を行いました。

ア カブトムシ里親まつり（協定相手方：特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊）

カブトムシの飼育を通じて命の尊さを学ぶイベントとして、特定非営利活動法人NPOクワガタ探検隊と一緒に「カブトムシ里親まつり」を令和元年度から実施しています。

参加いただいたご家族には、箕面市生まれのカブトムシ（成虫ペア）をお持ち帰りいただき、ご家庭で飼育していただくとともに、その成虫が産卵したら、また箕面国有林に放虫していただくというもので、今年度は、6月27日（日）（飼育編）、10月3日（日）（放虫編）に開催し、4家族、13名の皆さんにご参加いただきました。

参加者からは、「久しぶりにカブトムシにふれあえて楽しかった」、「子どもたちと一緒に良い思い出を作ることができた。」などの感想があり、家族で楽しい一日を過ごしていただきました。



【写真一 1 カブトムシ里親まつり(飼育編)】 【写真一 2 カブトムシ里親まつり(放虫編)】

イ 森林セラピー体験（協定相手方：NPO みのお山麓保全協会）

箕面の森林に親しんでもらうことを目的に、NPO みのお山麓保全協議会との協働で「み

Ⅲ 森林・林業・木材利用に関する広報・普及活動

のお森のセラピー」を開催しました。

緊急事態宣言明けの11月7日、27日(日)、秋の日差しを浴びながら森林を一日中満喫していただきました。紅葉を楽しみながらの散策、そのあとは、ヒノキ林の中に設置されたハンモックに揺られて森林の爽やかな空気を味わっていただきました。

参加者からは、「こんな身近に森林を感じる場所があるなんて」「森林に元気をもらった」といつもとは少し違う時間を過ごせたとの感想をいただきました。



【写真一 3 植物観察の様子】



【写真一 4 ヒノキ林内でのハンモック】

(2) 森林を素材にしたイベントの開催

箕面森林ふれあい推進センターでは、今年度も森林を身近に感じていただけるように様々なイベントを実施しました。

なお、実施にあたっては新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分行い実施しました。

ア 椎茸栽培に挑戦

台場クヌギ育成のために伐採した被陰木を活用して、「花の谷」内で椎茸栽培に挑戦しています。コマ菌を打ち込んだクヌギはすくすくと椎茸の寝床として活用しています。



【写真一 5 コマ菌の打ち込み】



【写真一 6 椎茸のホダ木（合掌立）】

イ 草木染め体験イベント

箕面国有林の森林整備で伐採したエドヒガン（サクラ）を草木染めの染料に加工して利用する草木染めイベント開催し、普及・PRに向けた取組を計画しましたが、今年度は残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止としました。

来年度以降も整備は必要なことから、伐採したエドヒガンを染料に利用した草木染めイベントの開催に取り組むことにしています。



ウ 地域のイベントに参加（箕面キューズモール）

「ふれあい広場 みのおの山と遊ぼう！」イベント

令和3年11月7日（日）に、NPO法人みのお山麓保全委員会主催の「ふれあい広場 みのおの山と遊ぼう！」のイベントが箕面市のキューズモールで行われ、箕面森林ふれあい推進センターも主催者の要請に応え、体験ブースを出展しました。

家族で楽しめる工作体験などを通じて身近にある箕面の森に親しんでもらうことを目的としたイベントで、当センターのブースでは、箕面国有林内で集めた葉っぱを使って、ストラップやしおりづくりを体験していただきました。併せてメインステージでは、当センターが作成した「雨水のぼうけん」の紙芝居を上演披露させていただきました。小さなお子さん連れのご家族など、たくさんの方々が足を止めて下さり、紙芝居を通して森林の大切さを学んでいただきました。

さらに、当センターで取り組んでいる「森林環境教育」「オオクワガタの棲める森づくり」「シカの被害から森を守る」各種取組のパネル展示を行いました。



【写真－7
葉っぱのストラップ・しおり作り】



【写真－8 「雨水のぼうけん」紙芝居】

エ クリスマスツリー設置

近畿中国森林管理局1階にあるギャラリーに少しでも足を運んでいただければと、局内の若手職員とアイデアを出し合い、今年はクリスマスツリーを設置しました。

ただツリーを飾るだけでなく、本物の木を触って感じてもらうために、日本森林ボランティア協会の皆さんに協力いただき、箕面国有林から、ヒノキやクロモジを移植して持ってきました。飾りは、同じように箕面国有林の松ぼっくりやどんぐりを加工して飾り付けを来場の方々にも協力いただきました。

1ヶ月間の短い期間でしたが、親子連れや大川沿いを散歩される方々にギャラリーで箕面の樹木に触れていただきました。



オ 技術の伝承

近畿中国森林管理局の若手職員に向けて「つるカゴ編み」の講習会を行いました。いろいろな機会に、市民の皆さんに森林にふれあってもらう手段のひとつとして、先輩職員の技術を次の世代に伝えていくことを目的に実施しました。



【写真一 9】
ボランティア協会による掘り起こし】



【写真一10】
若手職員への「つるカゴ編み」講習会】

2 冊子活用状況

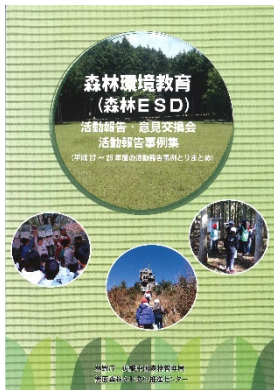
森林環境教育手引書〈小学校編〉・森林環境教育推奨事例集配布状況



森林環境教育手引書
〈小学校編〉



森林環境教育
推奨事例集



森林環境教育
(森林ESD)
活動報告・意見交換会
活動報告事例集



『もくざいのヒミツ』絵本版

配布月	府県	配布先	配布物
2021年 4月	奈良県	近畿大学	手引書・森林環境教育推奨事例集・森林ESD活動報告事例集 各10部
2021年 7月	全国	各関係機関 図書館等	『雨水のぼうけん』絵本版 200冊追加印刷 うち100部配布
2022年 1月	全国	各関係機関 図書館等	『もくざいのヒミツ』絵本版 200冊印刷
2022年 3月	全国	管内2府12県 市町村の教育 委員会 各関係機関等	新版・森林環境教育手引書 2,000部印刷 うち1,100部配布

3 情報発信

(1) KBS 京都

矢放係員が創作紙芝居「雨水のぼうけん」について、KBS 京都のラジオ番組に出演（6月18日）しました。



(2) 毎日新聞



ア 創作紙芝居「もくざいのヒミツ」の記事が滋賀版（12月2日）、京都版（11月29日）、大阪版（12月20日）に掲載されました。

イ 森林環境教育手引書〈小学校編〉の記事が滋賀版（3月24日）、京都版（3月26日）、大阪版（3月28日）に掲載されました。

(3) 大阪観光サポーターホームページ『MAIDO。Osaka Bob』

創作絵本「雨水のぼうけん」の記事が掲載（1月28日）されました。

(4) 林政ニュース

ア 創作紙芝居「もくざいのヒミツ」の記事が掲載（8月4日第658号）されました。

イ 創作絵本「もくざいヒミツ」の記事が掲載（3月9日第672号）されました。

(5) 林野庁広報誌「林野」

創作紙芝居「もくざいのヒミツ」の記事が掲載（9月号）されました。



(6) 近畿中国森林管理局広報誌『森のひろば』

ア 新作紙芝居『もくざいのヒミツ』を作成したことが紹介されました。また当センターの「森林ふれあい推進事業」の「カブトムシ里親まつり」について（7月号 No.1144）紹介されました。

イ 当センターが取り組んでいる地域のボランティア団体等が行う森林整備、多様な生物多様性の保護、教育職員等が行う森林環境教育（森林E S D）、さらには里山再生、森林の獣害対策など、地域の課題解決に向けて支援について紹介（2月号 No.1151）されました。

(8) 活動紹介

ア 局の「森林（もり）のギャラリー」

令和4年2月2日～2月25日に当センターの各種取組についてパネルで紹介展示予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に基づき、大阪府ではまん延防止等重点措置期間中のため、4月に延期となりました。

イ 農林水産省消費者の部屋

令和4年12月7日～12月11日

(9) こだま通信

1年間で5号（NO.115～NO.119）を発行し、箕面森林ふれあい推進センターの取組状況についての情報発信を行いました。



1 運営推進懇談会（箕面森林ふれあい推進センター）

（1）趣旨

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林づくり活動や自然再生活動を行っているNPO団体等及び森林環境教育を推進している教育関係者等の要望を的確に反映した取組等を行うため、当センターの運営に関して、学識経験者、森林ボランティア活動を行っている者及びマスコミ関係者をメンバーとする懇談会を設置し、懇談会等からの意見及び要望等を反映させた対話型の取組、効果的かつ効率的な運営を推進しています。

（2）検討事項

- ア ボランティアによる森林整備活動に関する事
- イ 自然再生に関する事
- ウ 森林環境教育支援活動に関する事
- エ 情報の受発信に関する事



（3）懇談会委員（五十音順、敬称略）

- ・北出 昭（毎日新聞社大津支局 記者）
- ・久山 慶子（フィールドソサイエティ 事務局長）
- ・山下 宏文（京都教育大学 社会科学科教授）
- ・八代田 千鶴（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員）

（4）令和3年度運営推進懇談会実施概要

第1回運営推進懇談会を7月5日(月)、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ウェブ方式で開催しました。

懇談会では、令和2年度事業実施状況及び評価、令和3年度活動予定について、各担当者から説明を行い、各委員との質疑応答を行いました。

専門家委員からは、「森の動物コース選定の取組は素晴らしいことなので、表現方法に工夫をして欲しい。また、状況の変化に応じて時間をかけてコースを仕上げて欲しい。」「間伐モデル林設定箇所については、小学5年生及び中高生の学習につながるの、説明看板の内容に工夫が必要である。」「様々な間伐方法や植生の発生状況が歩いて解るようなコースを選定して欲しい。」「新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組んでいる状況の中

では、学区行事実施することは難しいと思われる。グループ行動でのメニューに取り組んではどうか。」「創作紙芝居「もくざいのヒミツ」は良い内容であるが、「生物多様性」または「木は生きている」との内容を追加して欲しい。」「次回作には、鳥獣被害対策をテーマにした作品をお願いしたい。」と言った多くの意見や助言を頂きました。

専門家委員から頂いた意見や助言を踏まえ、実施可能なものから取り組むこととしています。



【写真-1 ウェブ方式により各委員へ説明】

また、令和3年度からは、運営推進懇談会の開催回数を見直し、年1回に変更しましたが、助言等が必要な事項がある場合には、必要に応じて開催することとしています。

なお、令和4年度の運営推進懇談会の開催時期は、令和4年6月から7月に開催する予定です。



2 森林環境活動等への助成情報の把握

(1) 趣旨

箕面森林ふれあい推進センターでは、今年度から新たな取り組みとして、森林整備や森林環境教育、市民活動等（以下、「森林整備等」という）を行うボランティア団体の活動に対して、企業等が行う助成情報の収集を行いました。これらの情報は、当センターの HP に掲載しています。

(2) 助成情報 詳細

- ア 全国版：活動エリアにかかわらず、森林整備等を行う団体であれば申し込み可能
- イ 広域地域版：複数の府県で、森林整備等を行う団体が対象
（ただし、近畿中国森林管理局内の府県に限る）
- ウ 府県版：一つの府県で、森林整備等を行う団体が対象
（ただし、近畿中国森林管理局内の府県に限る）
- エ 市町村版：一つの市町村で、森林整備等を行う団体が対象
（ただし、近畿中国森林管理局内の市町村に限る）

また、助成情報が掲載されている当センターの HP は、「近畿中国森林管理局 HP のキーワード欄」からも見る事が可能です。



【写真－1 近畿中国森林管理局 HP】



令和3年度 職員名簿

令和4年3月31日現在

上席自然再生指導官（所長）	高山 伸昌【令和4年3月31日退職】
自然再生指導官（森林環境教育担当）	倉石 博【令和3年10月1日転出】
自然再生指導官（自然再生担当）	田上 富二男
自然再生指導官（森林ボランティア担当）	中田 茂巳
係員（森林環境教育担当）	矢放 七海
係員（森林ボランティア担当）	水野 日向子

